

| | | |
|---|---|---|
|  | <p>エッセイ</p> <p>沙漠ツアーと GPS、衛星携帯、SUV</p> <p>SCE・Net 堀中新一</p> | <p>E-29</p> <p>発行日</p> <p>2011.10.24</p> |
|---|---|---|

サハラ沙漠リビア領、アルジェリアとニジェールの国境に接するところにハンモルズク砂丘(Murzuk(Murzuq) Sand Sea)がある。



リビアと周辺国（丸枠内にハンモルズク砂丘がある）

そこは Google earth®で円形の盆地のように見えるところで、東西南北 300 kmの広大な砂丘である。高低差 100~200m の砂丘から成る砂丘群であり、オアシスはおろか樹木一本、水場も存在しない。この砂丘を南西方向に4日をかけて横断するツアーがある。リビアの首都トリポリから第3の都市セブハに飛び、自動車でのツアーに入る。ハンモルズク砂丘の入口の町モルズクを出たところでタイヤ圧の調整を行い砂丘に入る。途中、テント泊を続けながらアルジェリア国境近くで抜け出し、砂丘西縁のリビアとアルジェリアを結

ぶルート（道路ではない）に入り北上、出発から 8 日目にセブハ近郊に戻る。この間の食料、水、燃料は全て、同行するバックアップカーが搭載して行く。車両による砂丘の走行は、風上から風下へ—ここでは南下のみが可能で、引き返すことができない。



果てしなく砂丘が続く



砂丘を越える

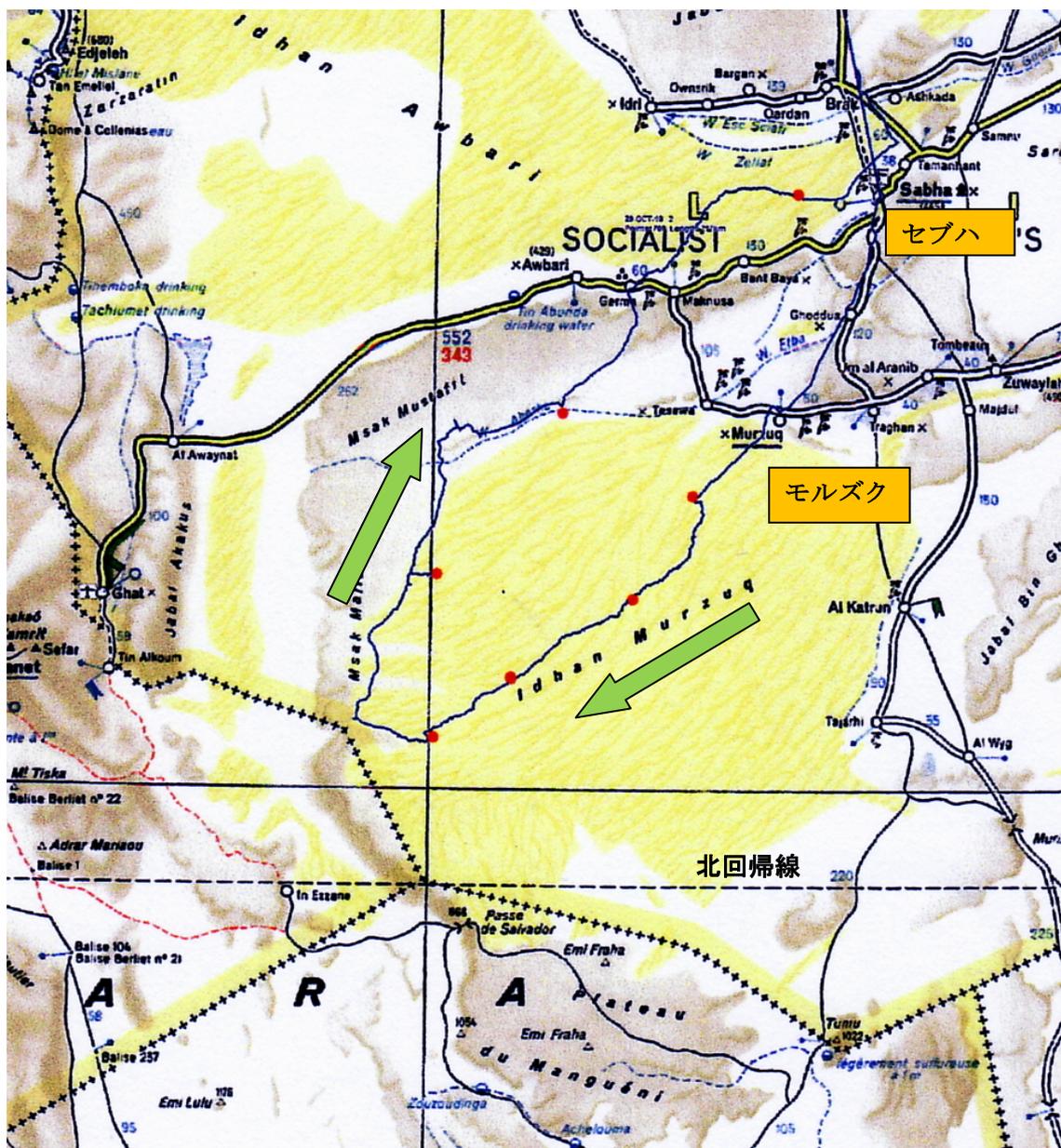
このツアーの様子は、デジカメ作品交歓サイト「みんなのデジブック広場（作品名：サハラ砂漠の旅リビア・ハンモルズク砂丘、投稿者：さまよえる牡羊）」で閲覧できる。一般には、過酷な沙漠ツアーと見られるが、乾季（冬期）前後の天候の安定した時期においては、いたって快適なツアーである。

砂漠ツアーにはその地域に精通した地元ガイドが同行する。ガイドは長年培った気象、地勢の知識と経験をもとに、通過可能な砂丘を見極めたり、スタックを回避するために砂面の状態をにらみながら走行ルートを選定し先導する。

砂漠ツアーの安心・安全の確保のためのソフトとハードは、GPS、衛星携帯と自動車である。

GPS は、いまや携帯電話、カメラなど装置され利用されている。砂漠では現在位置の確認に便利で、地図上に落とし走行経路を表示・記録出来る。このことによって、ガイドの秘密知識である水場などが明白になってしまった。しかし、刻々と砂の状態が変化する砂漠では、そのデータは結果であり参考値である。

この図は、2010年10月のツアーの経路のGPSデータを地図上に落としたものである。青色の線は走行ルート、赤丸はキャンプ地点である。(谷井厚子氏提供)



衛星携帯は誠にその便利さは論を待たない。ツアー参加者、ツアー催行者にとっての安心感は抜群である。

しかし、この二つはツアーの安全・安心を補強するツールである。なぜなら、古来、海洋と同様、砂漠の民は積み重ねた自身の経験と知識により砂漠を縦横に渡り歩いていたからである。

ヘビーな沙漠ツアーが可能になった最大の要因は、「ランクル」の存在にあると言っても良い。「ランクル」とは、トヨタ ランドクルーザー(Land Cruiser)の通称で、トヨタ自動車(株)が製造する四輪駆動のSUV(Sport Utility Vehicle)である。

このツアーの出発地であるセブハには沙漠ツアーのためのドライバーが存在する。2010年10月出発のツアーでは、乗用車5台、バックアップ車2台の計7台が招集された。さらにハンモルズク砂丘で地元ガイドの車両1台が加わった。いずれも「ランクル」の4ドア車とピックアップ車である。



ドライバーとツアー客
3名が乗車(4台)
ツアーガイド(日本、リ
ビア)が乗車(1台)



一台は沙漠ガイドとキャ
ンプ設営担当が乗車しテ
ント等とガソリンを積
載、もう一台にはコック
とコック見習いが乗車し
食料と水を積載

この地のドライバーたちは、駱駝から自動車に乗り換えた砂漠の民で、砂漠における運転には抜群のテクニックを有している。また、ドライバーは、車のオーナーであり、優秀なメカニックでもある。このドライバーたちの「ランクル」に対する信頼は高い。

サハラ沙漠をよく知るこのツアーのコンダクターによれば、数年前、トヨタ自動車が生

産台数世界一となり、電気自動車への関心が高まってきたとき、彼らの心配は、これからもトヨタが「ランクル」の生産を続けるのであろうかということであったという。また、ヨーロッパの沙漠ドライブ愛好者は、現在の「ランクル」の存在があるからこそ安心なドライブが楽しめると言っているとのことである。

トヨタは、2011年のダカールラリーの市販車部門へ参加した「ランクル」が、1号車が優勝、2号車が6位と優秀な成績を収めており、2012年への参加を決定している。

市販車として高度の性能と耐久性を要求される過酷な環境での「ランクル」の評価は高い。

自動車は日本の誇る技術と品質の塊の一つである。サハラ沙漠の過酷な環境で走り続けてくれる「ランクル」は、砂漠を旅する私たち日本人にとって頼もしくも誇らしい相棒である。